

研究所だより

第390号
2018年 7月19日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“海は広いな 大きいな 月がのぼるし 日が沈む
海は大波 青い波 ゆれてどこまで 続くやら
海にお舟を浮かばして 行ってみたいな よその国 “
『海』 日本の童謡・唱歌 (1941)



～本格的な夏の到来！熱中症対策を万全に！～

7月23日(月)は「大暑」(23日から立秋までの期間)。この頃は、安定した夏空が広がるようになる時期で、土用の丑の日もこの頃です。大暑という文字を見ているだけで汗が噴き出てきそうな名前ですね。最も暑い頃という意味ですが、暑さの本番はこれからで8月上旬～中旬にかけて暑さのピークを迎えます。また、この頃、ニュースや天気予報でよく耳にする「夏日」。これは暑さの指標に使われる言葉で、一日の最高気温によって使い分けられています。(夏日：25℃以上、真夏日：30℃以上、猛暑日：35℃以上)

☆第68次土佐清水市教育研究集会・一日教研のご案内☆

○期日： 8月 8日(水)

○会場：土佐清水市立中央公民館

○日程

受付 8:45～ 9:00

開会行事 9:00～ 9:20

講演 9:30～11:30

(質疑) 11:30～12:00

—講演—

演題 『これからの特別支援教育の在り方について』

講師 井上 貴美 先生 (特別支援教育巡回アドバイザー)

部会研修 13:30～16:45 (各会場)

※部会研修の詳細については、2次案内をご覧ください。

〈委託事業：研究協力校公開授業—幡陽小学校—〉

～「平成30年度高知県実践的防災教育推進事業」拠点校～

○「防災学習」大木聖子先生による公開授業・講演会

期日：平成30年 7月 6日(金)

指導者：大木聖子先生(慶應義塾大学 環境情報学部 准教授)

幡陽小学校は、「平成30年度高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、南海トラフ地震に備えた防災教育の充実を図るため、市危機管理課をはじめ関係機関と連携しながら避難訓練の実施、防災教育に関する指導方法等の開発・普及等に取り組んでいます。また、この事業の一環として今年度も大木聖子先生(慶應義塾大学環境情報学部准教授)をお迎えして公開授業や防災講演会を行っていただいております。

6日(金)午前中1コマ目(2校時目)は、全校児童対象に行いました。「日本の地震発生分布図」を見ながら1日に600回、1ヶ月に2万回の地震が発生しています。そして「地震が起こるとどうなる？」と問いかけ、阪神・淡路大震災の映像を見ながら、発生時のコンビニの様子やNHK神戸の部屋の様子など気がついたことについて意見を出し合いました。大木先生が「部屋に机がない時はどうする？」と問いかけると、子どもたちから「ダンゴムシになる」という意見が返ってきました。そこで、「ダンゴムシ体操」「いのちを守る3つのポーズ①ダンゴムシ(机がない時)、②サル(机がある時)、③あらいぐま(火災の時)」を練習しました。

2コマ目(3校時目)は、5,6年生対象に行いました。「いのちを守る3つのポイント①落ちてこない、②倒れてこない、③移動してこない」について学習し、実際にJアラートを使って、その時の状況を自らが判断し、ポーズをとりました。

午後からは、5,6年生、保護者、区長さん、市内小中学校の先生方を対象に「地震発生シミュレーション これからの防災教育～人を育む・未来をつくる～」と題して講演をしていただきました。「地震大国日本。世界の地震の約10%が日本で起こっている。身体に感じないものを含めると、平均して1ヶ月に約20,000～30,000回。M7程度の地震(直下型；阪神・淡路大震災や中越地震、熊本地震の規模)は、日本のどこでも起こりうる。まずは揺れから身を守る。それができて初めて津波や火災から避難できる。もしかして、こんな時代遅れな訓練やってませんか？『先生が指示してアクション「地震です。机の下に入りましょう」(立っている先生より座っている子どもたちが揺れに気づきます)』『校庭にいるなら中央でしゃがむ(震度6を越える強い揺れの渦中に移動するのはほとんど不可能です)』『校庭集合を校内放送(停電でも校内放送は使えるか)』『訓練の評価は集合までの時間(揺れから命を守る部分の振り返りはどうなのか)』など、形骸化した避難訓練では現実の地震に対応できません。突然の強い揺れから、瞬時に、自分の判断で、命を守る訓練を行うことが最重要。そして、教員は『今何のリスクから避難しているのか』を把握すること。」など具体的に話していただきました。

後半は「防災小説」風に「9月11日午後2時頃に南海トラフ巨大地震が発生」を想定してワークショップに移りました。上級生や区長さんたちがリーダーシップをとりながら「その時学校にいたら、プールにいたら、体育館にいたら、地域にいたら」と場面設定し意見を出し合いました。

最後に避難時に役立つ「防災ポーチ(中身は①命を守るために絶対入れておくもの、②あると便利なもの、③心がホッとするもの)がいいそうです)やペットボトルらんたん」など簡単に準備できる防災グッズや、「防災教育を推進することで思いやりのある子どもに育つ」「防災を手段としてつながりを広げ、深めていきたい」など保護者のアンケートを紹介していただきました。



1コマ（2校時）：「日本の地震発生分布図を見ながら」 「いのちを守る3つのポーズ」



「ダンゴムシ体操」



2コマ（3校時）：「世界の震源分布図を見ながら」 「いのちを守る3つのポイント」



（落ちてきそうなもの・倒れてきそうなもの・移動してきそうなもの）
「教室で」 「給食室で」



「サルのポーズは？」



「サルのポーズ完璧」



～“防災小説”風に地震を想定～

「2018年9月11日午後2時頃に南海トラフ巨大地震が発生！」

「各班で場面設定・協議」

「意見発表」



「防災グッズ・ペットボトルらんとん」



「保護者アンケートより（長野県）」

＝防災教育の価値を捉え直す＝

■保護者が対策をしない理由

- ・優先順位が低い
- ・やり方がわからない
- ・時間がない
- ・いざという時に役に立つのか不安
(2016年2月・第2回保護者対象アンケートより)

■一方で、防災に取り組んだ保護者は

- ・「親として子どもが頑張ることに応えたい」
- ・「子どもと親が何か一緒に取り組む機会があったことがよかった」
- ・「娘に思いやりが育っていることを感じられて嬉しかった」
- ・「家族で共通の話題となったことがよかった」
(2016年3月・第1回保護者対象ヒアリングより)



いじめや人間関係等を苦に自ら死を選ぶ子どもが後を絶ちません。学校の危機管理が問われています。まずは“さしすせそ”を基本に対応しましょう。

◇学校の危機管理“さしすせそ”！◇

- さ：最悪のことを考える（最悪の事態を想定して）
- し：慎重に
- す：素早く
- せ：誠実な対応
- そ：組織対応が大事

